

「明るい未来を創造する」

人権とは、長い歴史の中で、私たち人間が獲得してきた自由と権利です。しかし、この人権が奪われるようなことがありました。今日は、今までの歴史を振り返り、心で受け止め、これからの社会に繋げていくために人権というものに向き合っていきます。

「ハンセン病」という病気を皆さんは知っていますか。ハンセン病とは、「らい菌」に感染することで起こる病気です。現代においては感染することも発病することもほぼありません。しかし、感染し発病すると、手足などの末梢神経が麻痺し、汗が出なくなったり、痛い、熱い、冷たいなどの感覚が無くなることもあり、皮膚に様々な病的な変化をもたらすことがあります。私は、今年の総合的な学習の時間に初めてハンセン病の存在を知りました。ハンセン病患者の方が、私達の世代に向けて講義をしてくださっている動画を初めて見て、とても心が痛みました。ハンセン病患者の方の経験を聞き、現在、世界中が解決に向けて動いている課題の1つである「差別」が、私達の住んでいる日本で起きていた事も知りました。ハンセン病には、病気という1つの枠には収まりきれないほど、悲しい歴史があったのです。

私は授業を受けたあと、ハンセン病による差別がなぜ起こってしまったのか興味をもち、ハンセン病について調べました。そして、私が一番ショックを受けたことは、患者を強制的に収容し、療養所から一生出られなくする「ハンセン病絶滅政策」があったことです。私は、この政策を知ったとき、なぜ患者が犯罪者のような扱いを受けなければならないのだろう、なぜ家族も悲しまなければならなかったのだろうと、疑問に思いました。なぜ、病気にかかってしまっただけで、差別は起こったのでしょうか。差別の始まりは、体の一部が変形したりする外見の特徴などからです。しかし、外見の違いだけで差別が起こったという事実に私は納得がいきませんでした。なぜ、周りの人たちは患者にもっと寄り添うことができなかったのか、と疑問が浮かぶばかりでした。

しかし理由は存在します。ハンセン病は恐ろしい病気と言われており、ハンセン病にかかると医師らが警察官を伴ってたびたび患者の元へ訪れ、自分もこうなってしまうかもしれないという気持ちから、ハンセン病は恐れられていたのです。その後もハンセン病患者に対する様々な対応が人々の心の中にハンセン病は恐ろしいというイメージを植え付け、それが差別や偏見を助長していったのです。

私はこのことを知ったとき、いつの時代でも人は周りに流されやすく、弱いのだと感じました。また、この事実は私の周りではあまり知られていないように感じました。ここで皆さんに考えてほしいことがあります。皆さんは、このハンセン病が流行した時代と同様のことが起きたとき、何を思い、どのような行動をしますか。いつの時代でも、恐怖に打ち勝つことは大変なことです。

しかし、私は正しい情報を知る努力をし続け、さらにその情報を正しく発信することができるのではないかと考えました。私にも、過去に正しくない情報に悩んだ経験があります。誤解や偏見が生まれてしまい、とてもつらい思いをしたことがあります。誰かが周りに流されず、正しい情報を得て、差別や偏見に対して声を上げることができれば、結果はもっと違うものだったでしょう。ハンセン病でも同様のことが言えると思います。

私は、ハンセン病は患者だけでなく、その周りの人の心にも病を植え付けたのだと感じました。そして、一度植え付けられたものは簡単には取り除けません。しかし、これは阻止できたかもしれないことだと私は考えています。誰か一人がそれはおかしいと手を上げることができれば、結果はもっと違うものだったでしょう。

これからの時代は、ハンセン病による差別が起こったことなどの歴史を振り返り、現代に残る目に見えない偏見や差別を無くせるよう、今を生きる私達の行動や声で未来へ繋げていくことが大切になってくると考えています。

自分だけの小さな世界に囚われず、それぞれの個性が輝く社会になれば、差別や偏見は減っていくでしょう。人権に守られ、自由に暮らすことができる私達はきっと、そのような明るい未来を創造していけるはずです。まだ学生の私にもできることはたくさんあります。多種多様な意見がある中で、他の人の立場や意見を尊重し、一人ひとりの考えを生かしていくことが大切なことだと考えます。

お互いを尊重しあい、多様性を受け入れて暮らすことができたとき、私達はきっと、そのような明るい未来を創造していけるはずです。